

# 『立命館人間科学研究』論文査読ガイドライン

## はじめに—本ガイドラインの目的

『立命館人間科学研究』（以下、「本誌」という）は立命館大学人間科学研究所が母体となり発行している学術誌です。人間科学研究所における研究の幅の広さ・学際性と参加研究者の多さを反映して、幅広い分野からの投稿論文を中心にした学術誌として刊行を重ねてきました。また、掲載論文の質の向上のために、研究所外の研究者を含む 2 名による査読を実施してきております。

本ガイドラインは、投稿される論文の査読を本誌の編集方針と合致するように円滑に行うために作成するものです。本誌は、研究所のプロジェクトに関わる専任教員はもとより、さまざまな研究科に所属する大学院生等が投稿する雑誌として機能しております。また、半年ごとに募集から発行までを完結する編集サイクルを採用しており、査読後の改稿期間が数週間と限られております。このような点をふくめて、本ガイドラインにより本誌の査読がよりよいものとなることを願っております。

### 1. 査読の目的

査読は、本誌に投稿された論文の質の評価を行い、査読者の指摘とそれに対する投稿者の対応（投稿原稿の修正および査読者の指摘への返信）を通じて、より学術的に質の高い論文が本誌に掲載されることを第一義的的目的として行う。同時に、限られた編集期間内において、掲載水準に到達していない投稿原稿については、その点を指摘し編集作業を効率化する。

### 2. 査読者の役割

本誌に投稿された原稿については、分量・引用文献スタイルなどもっぱら形式的な点については人間科学研究所事務局にて点検し、その上で査読に付すかどうかを編集長が判断する。

査読者は、投稿原稿の内容について、本文を中心に、以下の「審査の評価軸」にあげる視点から論文を評価し、問題点と可能な修正方向の指摘を行った上で、総合判定を行う。また、妥当と思われる場合は、投稿原稿の内容等を考慮し、掲載区分の変更についての投稿者への提言を行うことができる。

ある投稿原稿に割り当てられた査読者は、原則として、査読が終了するまで、すなわちその投稿論文の受理ないし却下が行われるまで担当する。

### 3. 査読における抄録の扱い

査読に際しては、日英の抄録を含めた投稿原稿全体の内容について点検を行う。ただし、

本文の内容に大幅な修正を必要とする場合には、本文の点検を中心とし、抄録について細かく点検することは不要である。言い換えれば、本文について若干の修正により掲載が見込める場合（要修正・小または受理相当）には、抄録について丁寧に点検を行う。

英文抄録については、査読者による点検ではなく、編集長あるいは編集長が指名するものによる点検により行うことができるものとする。

## 4. 審査の評価軸

『立命館人間科学研究』に投稿された論文については、投稿者が希望する投稿区分をふまえて、本文および抄録について、以下の評価軸にそって査読を行い、投稿原稿に含まれる問題点と可能な修正方向の指摘を、できるだけ明確に、また具体的に行う。本文についての視点は、すべての区分に該当する「共通評価軸」と論文の区分によって異なる「区分別評価軸」に分けられる。抄録は、日英両言語について審査を行う。

### 4-1 本文・共通評価軸

#### 1. 主題設定・目的・方法・倫理的配慮の妥当性

- 問題の設定や研究方法・研究対象の選定が、人間科学の研究として妥当であるか
- 題名が内容に対して適切であるか
- 目的の設定が当該論文で扱いうる範囲の明確なものであるか
- 方法が目的と合致したものであり、明確に記述されているか
- 調査協力者のプライバシー保護、調査手続きにおける手続きなど倫理的に妥当なものであることを示す記述が適切になされているか
- 当該論文が既に発表された論文と大きく重なった内容がないかどうか

#### 2. 論旨の展開と構成の妥当性

- 論旨の展開が分かりやすく、矛盾や論理の飛躍がないか
- 概念や用語が適切に用いられているか
- 章・節の構成や順番は適切か
- 全体または部分的な量のバランスがとれているか
- 分析方法や分析視角は明確にされているか
- 結果が明確にまた適切に提示されているか
- 考察が先行研究をふまえ、結果を十分批判的に分析したものとなっているか
- 問題設定と結論が合致しているか
- 先行研究が、内容的な意味で適切に引用され用いられているか

#### 3. 表現と形式の適切性

- 明晰な文章になっているか
- 本誌の学際的性格をふまえて、読者の多様性に十分配慮した記述となっているか
- 一般的でない用語などが正確かつ適切に説明されているか
- 先行研究をふまえた適切な考察が行われているか
- 表記が正確で統一性のあるものとなっているか
- 図や表は、見やすく適切な表現・大きさとなっているか

#### 4-2 本文・区別評価軸

##### 1. 原著論文 (Original Articles)

掲載可能な原著論文は、「実証的あるいは論考的研究に基づく原著論文であって、未発表のもの」である。共通評価軸に加えて、以下の点を評価軸に加える。

- 主題・対象・方法・結果などに、先行研究にない人間科学の発展に貢献する新たな価値が認められるか

##### 2. 展望論文 (Reviews)

掲載可能な展望論文は、「特定の研究主題や分野に関する研究成果の概説と論評、研究の現況と課題など、当該研究の啓蒙と啓発に寄与する内容の評論であって、未発表のもの」である。共通評価軸に加えて、以下の点を評価軸に加える。

- 論文の内容が既存の研究成果と概説と論評を中心にしたものであるか
- 既存の研究成果をふまえた整理・分析が適切になされているか
- 主題に関連する研究成果が適切に引用されているかどうか

##### 3. 実践報告 (Practical Research)

掲載可能な実践報告は、「応用・実践・臨床の現場における研究の経過や事例研究の成果など、当該分野における実証的研究の進展に寄与する内容の報告であって、未発表のもの」である。共通評価軸に加えて、以下の点を評価軸に加える。

- 論文の内容が応用・実践・臨床の現場における研究の経過や事例研究の成果など実証性をもったものであるか
- 事例研究等において、理論的な観点からの考察等学術的な意義の明確化を適切に行っているか

#### 4-3 抄録・キーワードについての評価軸

- 日本語の抄録が、背景・目的・方法・結果等論文全体の内容を要約しているか。  
抄録のみで本文の要点を理解できるものとなっているか。
- 英語の抄録が、背景・目的・方法・結果等論文全体の内容を要約しているか。抄録のみで本文の要点を理解できるものとなっているか。

- キーワードが、論文の内容を適切に表現し、また検索に付す上で妥当なものとなっているか。

## 5. 総合判定の基準

査読者は、上記の評価軸にもとづき、総合判定を行う。総合判定は、以下の4つの区分のうち一つを選ぶ。

<初回査読および2回目の査読における判定>

- (A) **受理**：修正は不要であり、このまま掲載してよい。
- (B) **要修正・小**：表現上の補足・修正等、多少の修正が必要である。再査読を行う。ただし、修正の質・量により、編集長の判断で再査読を行わずに受理とすることができる。
- (C) **要修正・大**：このままでは掲載不适当であり、大幅に書き直す必要がある。再査読を行う。
- (D) **掲載不可**：掲載は不适当である。

<3回目の査読における判定>

- (A) **受理**：修正は不要であり、このまま掲載してよい。
- (B) **要修正・小**：表現上の補足・修正等、多少の修正が必要である。再査読を行う。ただし、修正の質・量により、編集長の判断で再査読を行わずに受理とすることができる。
- (D) **掲載不可**：掲載は不适当である。

なお、限られた期間内で編集を実施するため、「(C) 要修正・大」判定は初回査読時および再査読時のみとし、3回目の査読時には判定区分に含めない。

上記基準についての説明は、以下の通りである。

- (A) 修正は不要であり、このまま掲載してよい。
- (B) 原稿の内容にはほぼ問題がないが、表現上の補足・修正、あるいは若干の内容上の補足・修正などを主にした、若干の修正が必要である。生データの再集計・再分析は必要としない。およそ2週間程度で修正が可能と想定できる。
- (C) 内容上の大きな問題があり、このままでは掲載不适当である。目的、方法、結果、考察、倫理配慮の内容、あるいは構成、各部分の分量のバランスなど大幅に書き直す必要がある。生データの再集計・再分析を必要とする。およそ4週間程度で修正が可能と想定できる。
- (D) 内容上の大きな問題があり、掲載は不适当である(掲載不可)。目的、方法、結果、考察、倫理配慮などに根本的な問題があり、当該号の編集期間での修正は困難と

思われる。

なお、本文はB相当であるが、抄録・キーワードのみ大幅な修正が必要な場合には、その後の対応は編集委員長が中心に行い、また修正期間も2週間程度が妥当と考えられるため、Bとするのを原則とする。

#### 付則

1. 本ガイドラインの改廃は、人間科学研究所『立命館人間科学研究』編集委員会が行う。
2. 本ガイドラインは、2013年4月1日に施行し、本誌第29号から適用する。
3. 以後の改訂履歴は、付則の後に略記する。

#### 改訂履歴

2013年6月14日改訂（第29号から適用）

2013年11月8日改訂（第30号から適用）